牛 肉 情 勢

8月10日 更新　JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容
供給	1.国産	○ 6月の成牛と畜頭数は、88.4千頭と前年並み(前年比101.6%)。 内訳を見ると、和牛:40.6千頭(前年比102.9%)、交雑牛:21.2千頭(同107.4%)、乳牛去勢:11.2千頭(同92.4%)となった。 ○ 7月の成牛と畜頭数は、速報値(7月31日まで集計)で95.1千頭と前年並みとなった(前年比101.0%)。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(7月27日公表)によると、7月の出荷頭数は、全品種での増加が見込まれることから、前年同月を上回ると予測し、 8月は、乳用種は減少するものの、和牛および交雑種の出荷頭数の増加が見込まれることから上回ると予測する。 (7月95.8千頭(前年比101.4%)、8月86.1千頭(同100.4%))。 そのため、3か月平均(6月～8月)でも、出荷頭数90.5千頭(前年比101.4%)、生産量28.8千ﾄﾝ(同102.6%)と前年を上回る予測となっている。
	2.輸入	○ 6月の輸入通関実績は、全体で43.7千ﾄﾝと前年を下回った(前年比75.7%、前月比94.1%)、内訳ではチルド;16.5千トン(前年比72.3%、前月比102.5%)、 フローズン;27.2千ﾄﾝ(前年比77.9%、前月比89.6%)となった。 輸入相手国別では、チルドは豪州が増加したが、その他の国は減少した。フローズンは、全ての国が減少した。 (参考:形態別相手国別輸入数量) チルド　　:米国7.6千ﾄﾝ(前年比60.7%)、豪州7.6千ﾄﾝ(同106.8%)、カナダ0.6千ﾄﾝ(同53.5%)、ニュージーランド0.3千ﾄﾝ(同37.7%)、メキシコ0.3千ﾄﾝ(同31.9%) フローズン :豪州10.9千ﾄﾝ(同80.3%)、米国9.7千ﾄﾝ(同92.5%)、カナダ2.9千ﾄﾝ(同70.9%)、メキシコ1.7千ﾄﾝ(同58.6%)、ニュージーランド1.5千ﾄﾝ(同62.0%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドの輸入量は、需要の低迷や米国産の現地価格の高騰等により減少し、7月、8月ともに前年を下回ると見込んでいる。フローズンは、 国内の輸入品在庫量が多い事や円安の影響等により、7月、8月ともに前年を下回ると見込んでいる。3か月平均でも、チルド、フローズンともに下回ると見込んでいる。 令和5年7月　合計;43.7千ﾄﾝ(前年比84.0%)、チルド;17.6千ﾄﾝ(同90.2%)、フローズン;26.1千ﾄﾝ(同80.4%) 令和5年8月　合計;44.7千ﾄﾝ(前年比83.5%)、チルド;17.7千ﾄﾝ(同90.5%)、フローズン;27.0千ﾄﾝ(同79.6%) 直近3か月(6月～8月)平均 合計;44.0千ﾄﾝ(前年比80.8%)、チルド;17.3千ﾄﾝ(同84.0%)、フローズン;26.6千ﾄﾝ(同79.0%)
需要	1.家計消費	○ 総務省発表の6月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり牛肉購入量は479g(前年比103.0%)、支出金額が1,587円(同96.6%)となり、 購入量は、前年を上回ったが、支出金額は下回った。(※2019年度同月比:購入量 91.2%、金額 97.7%)
	2.小売動向 6月概況	○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の6月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,130.2億円(前年比104.8%、既存店ベース103.8%)と前年を上回った。 牛肉はバーベキュー需要に苦戦する中で、価格が落ち着いた国産よりも輸入品の動きが良い。豚肉は国産にも回復傾向が見られたが、輸入品の動きがよい。 鶏肉はむね肉を中心に好調。加工肉は値上げの影響で好不調がわかれている。売上高は確保できても利益が出にくい状況が続いている。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した6月販売概況によると、畜産品の売上は863.3億円(店舗調整後で前年比104.2%)となり、前年を上回った。 豚肉、鶏肉の動きは良かったが、牛肉の動きは鈍かった。鶏卵、ハム・ソーセージの動きは良かった。
	3.外食 6月概況	○ 日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査6月度結果報告によると、コロナ5類移行を受けて外食需要がようやく回復基調に入り、インバウンド需要の増加もあり、 全体売上は前年比111.8%、2019年比では103.5%と好調であった。店舗数は2019年レベルに回復しておらず、コロナ禍を経て事業基盤が大きく揺らいだままとなっている。 業態別; ①ファーストフード　前年比111.2%、2019年度比115.6%　期間限定商品による底上げやシニア層の店内飲食の戻り、都心のビルインやSC立地店舗の回復基調で売上は好調 ②ファミリーレストラン　前年比111.8%、2019年度比 93.9%　全体では回復基調が継続し、閉店時間を延長する店舗が徐々に増加。焼肉店は郊外立地店の一部では好調維持 ③ディナーレストラン　前年比113.0%、2019年度比 91.5%　インバウンド需要による回復が続き、客単価上昇にも寄与している。企業や団体の宴会が少しずつ復調し、売上は好調 ④居酒屋　前年比113.9%、2019年度比 61.7%　早い時間帯では、客足が2019年を上回る店舗もあり、賑わう時間帯が変化してきた。大規模宴会はゆっくりだが復調
	4.輸出	○ 6月の輸出実績は621.0ﾄﾝ(前年比122.0%)と前年を上回った。台湾向け(119.6ﾄﾝ、前年比159.0%)は好調が続いており、香港向け(113.4ﾄﾝ、前年比109.5%)は前月の前年割れ から復調した。また、カンボジア向け(24.6ﾄﾝ、前年比91.2%)は前年を下回っており不安定な状況となっている。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、6月末の推定期末在庫量は160.3千ﾄﾝ(前年比112.6%、前月比99.8%)と前年を上回った。 内訳は、輸入品;148.1千ﾄﾝ(前年比114.2%、前月比99.9%)、国産品;12.2千ﾄﾝ(同95.5%、同99.2%)となり、輸入品は前年実績を上回ったが、国産品は下回った。 なお、今後の期末在庫の推移は、7月末;157.6千ﾄﾝ(同104.7%)、8月末;154.8千ﾄﾝ(同96.8%)と、7月は前年を上回って推移するが、8月は下回ると見込まれている。
枝肉相場	1.R5年7月 速報値	○ 7月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;7月31日時点)は、和牛去勢A5が2,544円(前年比97.4%)、A4が2,149円(同90.4%)、交雑牛B3が1,491円(同96.5%)、 乳牛去勢B2が935円(同87.4%)であった。 ○ 牛肉消費の低迷が継続していることに加え、市中在庫が多いことから、3連休後の盆向け需要が振るわず、交雑牛は保合いだったものの、和牛・乳牛去勢牛は 弱含みで推移した。
	2.R5年8月 予測	○ 生活防衛意識の更なる高まりに加え、酷暑が連日続いていること等から、引き続き牛肉消費の低迷が想定されるため、全品種とも前月より弱含みで推移するものと見込まれる。
部分肉相場	1.R5年 8月 予測	◎ 首都圏仲間価格【税抜】　【和牛:4等級】　【ホルス:2等級】　【交雑牛:3等級】 ・和牛カタセット(スネなし) : 2,900円　・ホルスカタセット(同) : 1,800円　・交雑牛カタセット(同) : 2,000円 ・和牛ロースセット(ヒレなし): 6,000円　・ホルスロースセット(同): 3,000円　・交雑牛ロースセット(同) : 4,200円 ・和牛モモセット(スネなし) : 3,700円　・ホルスモモセット(同) : 1,900円　・交雑牛モモセット(同) : 2,250円 ・和牛トモバラ : 2,000円　・ホルストモバラ : 1,150円　・交雑牛トモバラ : 1,300円

◎ 枝肉相場予想:東京市場【税込】

	6月実績		7月速報値		8月予測		9月予測	
・和牛去勢 「A-5」:	2,564円	(98.4%)	2,544円	(97.4%)	2,500円	(102.0%)	2,500円	(97.7%)
・和牛去勢 「A-4」:	2,176円	(91.4%)	2,149円	(90.4%)	2,150円	(98.7%)	2,150円	(94.3%)
・交雑去勢 「B-3」:	1,452円	(96.0%)	1,491円	(96.5%)	1,450円	(102.1%)	1,450円	(100.8%)
・乳牛去勢 「B-2」:	913円	(84.2%)	935円	(87.4%)	900円	(102.9%)	900円	(93.6%)

備　考

○国内生産量の推移(単位:千頭・%)

暦年	和牛計		交雑牛計		乳牛去勢計		成牛計	
	頭数	前年比	頭数	前年比	頭数	前年比	頭数	前年比
R1年	457.8	101.1	236.7	94.9	167.9	94.4	1,038.6	98.8
R2年	477.2	104.2	227.8	96.2	161.6	96.2	1,047.1	100.8
R3年	483.1	101.2	228.9	100.5	154.5	95.6	1,054.6	100.7
R4年	490.2	101.5	248.6	108.6	140.8	91.4	1,083.1	103.0
R5年　3月	40.5	102.5	21.9	109.0	11.1	90.9	92.8	102.7
R5年　4月	43.3	101.0	23.7	110.9	11.2	91.9	93.2	100.9
R5年　5月	38.3	102.7	20.5	104.3	11.1	92.4	84.7	101.2
R5年　6月	40.6	102.9	21.2	107.4	11.2	92.4	88.4	101.6

※成牛計は、乳牛雌やその他品種も含まれるため数字が一致しない

○輸入量の推移(単位:千ﾄﾝ, %)

暦年	輸入数量合計		チルド数量		フローズン数量	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
R1年	615	101.3	275	98.6	340	103.6
R2年	600	97.6	262	95.1	339	99.5
R3年	585	97.4	264	100.9	321	94.7
R4年	560	95.4	217	83.0	343	104.3
R5年　2月	38.0	100.6	13.3	81.1	24.7	115.5
R5年　3月	36.8	108.5	17.8	105.2	19.0	111.7
R5年　4月	67.9	110.3	21.1	102.9	46.8	114.1
R5年　5月	46.4	101.4	16.1	78.5	30.3	120.0
R5年　6月	43.7	75.7	16.5	72.3	27.2	77.9

＊財務省:
通関実績

○総務省:家計消費量(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り				チルド数量	フローズン数量	合計	前年比
	数量	前年比	金額	前年比				
R1年	6,558	97.6	21,178	96.8	2,066	2,274	4,339	121.9
R2年	7,199	109.8	23,677	111.8	2,341	2,503	4,845	111.6
R3年	6,748	93.7	23,210	98.0	3,490	4,388	7,879	162.6
R4年	6,232	92.4	22,355	96.3	3,737	3,717	7,454	94.6
R5年　3月	466	87.6	1,596	91.8	396.0	368.9	764.8	129.9
R5年　4月	485	98.2	1,758	106.3	405.0	333.4	738.3	141.1
R5年　5月	518	99.0	1,833	96.3	298.9	264.3	563.1	110.8
R5年　6月	479	103.0	1,587	96.6	345.7	275.3	621.0	122.0

○輸出量の推移(単位:ﾄﾝ、%)

○市況の推移: 東京市場(税込み、単位:円/kg、%)

暦年	和牛去勢A-5		和牛去勢A-4		交雑牛去勢B-3		乳牛去勢B-2	
	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比
R1年	2,732	97.3	2,408	97.4	1,626	106.7	1,016	97.8
R2年	2,459	90.0	2,103	87.3	1,398	85.9	924	91.0
R3年	2,702	109.9	2,427	115.4	1,554	111.1	1,004	108.6
R4年	2,607	96.8	2,348	96.9	1,523	98.1	1,042	102.4
R5年3月	2,578	97.5	2,255	93.8	1,441	94.2	929	87.4
R5年4月	2,616	97.3	2,328	94.0	1,508	94.3	1,079	95.4
R5年5月	2,559	99.0	2,235	94.9	1,505	93.9	943	85.0
R5年6月	2,564	98.4	2,176	91.4	1,452	96.0	913	84.2
R5年7速報値	2,544	97.4	2,149	90.4	1,491	96.5	935	87.4

農水省食肉流通統計
(速報値は農畜産業振興機構が公表する東京市場の平均枝肉価格)